

ダイヤスプレー

高性能往復式噴霧器

押しても引いてもねらった所にらくらく噴霧

型式名 **NO.590**

商品名

2way
ツ-ウエイ容量 **1.7ℓ**

取扱説明書

- ・ご使用前に必ずお読みください。
- ・必要なときに読めるよう、大切に保管してください。

特許申請済

⚠️ ご使用上の注意

- 薬品は必ず規定通り薄めてください、一般的にはスミチオン、マラソン等の乳剤は2000～1000倍に薄めて使用します。高濃度のもので500倍程度に薄めて使用します。誤ってそれ以上の希釈倍数200～100倍の高濃度で使用しますと、植物を痛めるばかりでなく本機の機能も損ない、また人体にも有害ですので正しい希釈倍数でご使用ください。なお規定の希釈倍数が50～原液など特に高濃度で使用する薬液は、有機溶剤が含まれていないことを必ずご確認ください。有機溶剤を含む場合は、絶対に使用しないでください。有機溶剤を含まない”液剤タイプ”の除草剤等は薬品の使用書通り250～20倍の高濃度でも使用できます。又、石灰硫黄合剤も希釈倍数7倍程度で使用できますが使用後のお手入れは充分に行ってください。

希釈倍数	2000倍	1000倍	500倍
水1ℓに対しての薬品量	0.5mL	1mL	2mL
水1.7ℓに対しての薬品量	0.85mL	1.7mL	3.4mL

- 使用しているうちにネジ部がゆるむことがありますので時々ご使用前に各部のネジをしっかりと締め付けてご使用ください。
- パッキング類は正しい希釈倍数でご使用になっても使用年数、使用状況によっては軟化及び硬化することがありますのでそのような場合パッキング類(関連部品も含む)をお取り替えてください。
- 保管の場合は真水で洗浄後、空吹きしてシャフトに油をつけて、屋外や窓際などの日光のあたらない所に、また冬期は凍らない所に保管してください。

⚠️ **注意** は指示に従わなかった場合、人が傷害を負う可能性および物的損害を生じるおそれのあるものを示しています。

⊘ 使用できない主な薬液

厚生労働省認可の防疫用薬品 (ダイアジノン乳剤・スミチオン乳剤・DDVP乳剤等その他の防疫用薬品)

・酸性およびアルカリ性の強い薬品・クレゾール・クレオソート・しろあり防除薬液・引火しやすい液体・シンナーなど溶解力の強い溶剤・塗料・洗剤及びクリーナー・高濃度の農薬・粘性のある液体など。

* この他にも使用できない薬品がありますので、当社にお問い合わせの上、ご使用ください。

農水省認可の一般農薬用ダイアジノン乳剤・スミチオン乳剤・DDVP乳剤等は使用できます。

⊘ 禁止事項

・本器を改造したり、本書に説明のない分解や修理を行うことは本器の安全上に重大な影響を及ぼすおそれがあります。決して勝手な改造や修理を行わないでください。

用途 園芸用・その他の散布に最適。

※本書の内容、及び本器の仕様は、予告なく変更する事があります。



株式会社

フルブラ

〒110-0016東京都台東区台東3-11-6

TEL03-3834-0331

各部の名称と特徴

ノズル（噴霧口）

- ・霧の角度が約80° から直射まで調節できます。
- ・直射にすると約7mの高さまで噴出します。

ハンドル

- ・後部のハンドル操作で往復噴霧できます。
- ・ハンドルを ← 押したときも → 引いたときも 軽く霧が出ます。
- ・1回の往復噴霧量約10mlで高能率です。

シリンダー固定ナット

シリンダーキャップ

パイプジョイントナット

シャフト

ノズルパイプ（長さ30cm）

- ・霧の方向が、上下左右に変えられます。
- ・軽くて丈夫なステンレス製。

本体

- ・散布方向に応じて持ちやすい形状です。

ピストン

- ・耐薬品・耐久性抜群です。

タンク（容量1700ml）

- ・タンク下部を小径にした、取り付け取り外しやすい設計です。

シャフトパッキング部

- ・新設計により液もれ防止効果がよく、耐久性も抜群です。

ご使用の順序と上手な取り扱い方

1 タンクの取り外し方

- タンクの下部を持って左に回して取り外してください。

2 タンクに液を入れる

- 薬液の希釈計算 $\text{薬品量ml} = \text{薄める水の量ml} \div \text{希釈倍数}$

※添付の計量スポイトの目盛りは多少誤差がありますのでご了承ください。

3 タンクの取り付け方

- 液を入れたタンクを置いて本体部を回してください。

4 噴霧の仕方

- ハンドルを前後に作動してください。
噴霧始めの時は、3～5回ハンドルを作動しますと霧が出ます。
- 右図のように噴霧の状況に応じた持ち方ができます。
- ハンドルの作動が重く感じる時はシャフト部に油をつけてください。

5 霧の角度の調節の仕方

- ノズル（噴霧口）の締め具合で霧が約80° から直射まで調節できます。
- 直射にすると約7m噴出しますから高所や、遠方の散布に又、風の強いときに便利です。

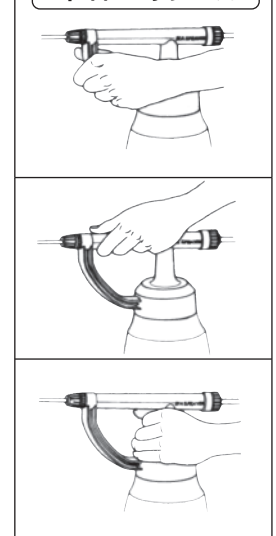
6 噴霧方向の調節の仕方

- 霧の方向が上下左右に変えられますので手の届かない所や葉ウラ等の散布に便利です。

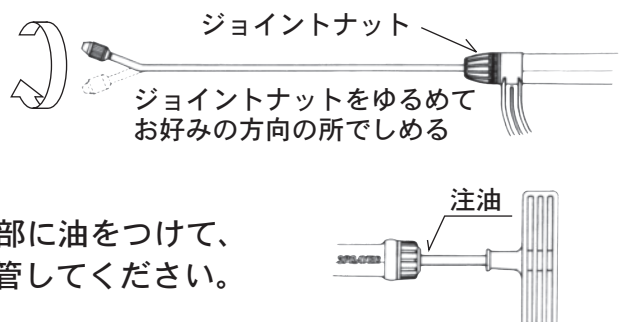
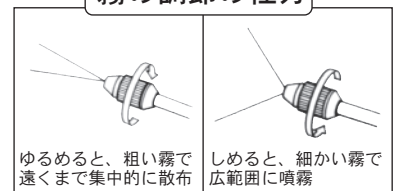
7 ご使用後の大切なお手入れ

- こしあみに付いたゴミは掃除してください。
- タンク内を真水で洗浄した後に、再度本体内部を洗浄するために10回位噴霧してください。
- 保管の場合は真水で洗浄後、空吹きをしてシャフト部に油をつけて、日光のあたらない所に、また冬期は凍らない所に保管してください。

本体の持ち方



霧の調節の仕方



故障かな？と思ったときは

シリンダーキャップから液がもれるとき

- シリンダーキャップがゆるんでいる……締め付ける。
- シャフトパッキングの摩耗……分解して交換。

—シャフトガイド及びパッキングの破損……分解して交換。

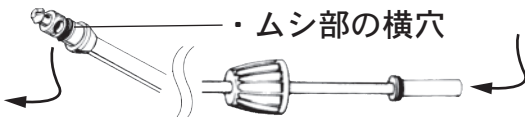
霧の出が悪い時

—ピストンホルダー部のゴミづまり
……ピストンホルダー内の掃除。

—ピストンの破損……分解して交換。

—ピストン止めネジ及び
ピストンホルダーのゆるみ……締めつける。

—噴霧口及びムシ・ノズルパイプの
ゴミが詰まっている……噴霧口・
ノズルパイプの掃除



・ムシ部の横穴
※ノズルのパイプの後方から
針金を通しムシ部の横穴から
ゴミを取り除いてください。

—吸上げパイプの抜け、ゆるみ……強く差し込む。

—こしあみにゴミが詰まっている……掃除。

シャフトの作動が重い時

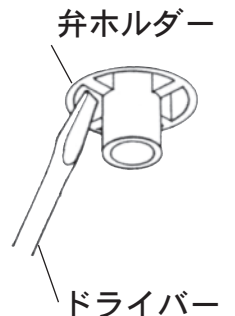
シャフト部及びパッキングに……注油

⚠ 注意：シャフト部に傷を付けないように
ご注意ください。

片道噴霧の時

- ①ピストンの交換又はピストンホルダー内の掃除。
- ②ボール弁部の掃除。(P4参照)

弁ホルダーは吸上げパイプ差し込み部わきの溝にマイナスドライバーを右図のように差し込み、左に回し、ボール弁を紛失しないように注意深く取り外してください。取り付けは弁ホルダー中央にボール弁を落とし込みしっかりと締めつけてください。



[ハンドル作動部の部品交換の仕方]

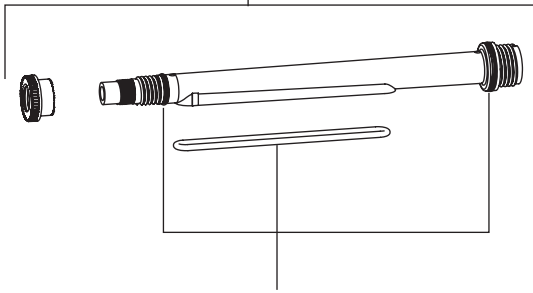
- ①シリンダーキャップをゆるめて外し、そのままハンドルを強く引くと上図のようにシリンダーからハンドル作動部が取り外せます。
- ②ピストン止めネジをゆるめて外すとピストンが取りはずせます。さらにピストンホルダーをゆるめてははずすとシャフトから部品が取りはずせます。(P4参照) ボール弁の紛失に注意してください。
- ③部品交換後は分解図のように順番・方向に注意して組み込んでください。ピストンホルダー及びピストン止めネジを十分に締めつけてください。
- ④シャフトガイド及びシャフトパッキングに油をつけてから、シリンダーキャップをシリンダーに締めつけると所定の位置に簡単に組み込まれます。

※分解・組立のご注意

- ①タンクをはずし本体の内部の液を全部噴霧してから分解してください。
- ②シャフトをペンチ等で直接はさんでキズをつけないでください。
- ③ボール弁等の小さい部品を紛失しないようにしてください。
- ④シャフトパッキングは新設計により、シャフトより大きめの内径φ7.8ミリ外径φ11.6ミリを使用しております。

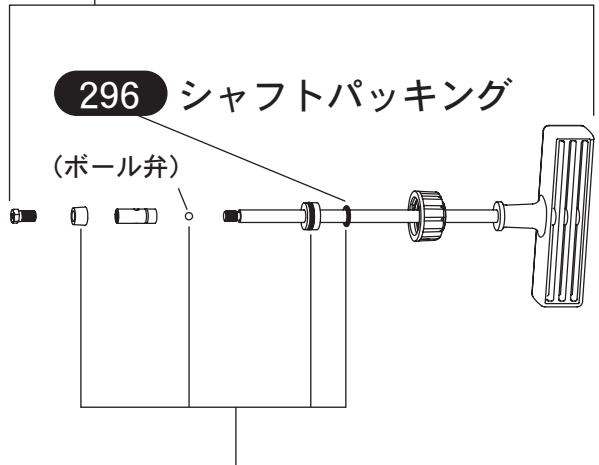
分解図と部品セット番号

292 シリンダー部セット



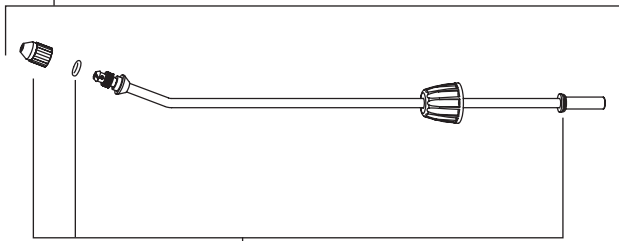
293 シリンダー部パッキンセット

294 ハンドル作動部セット



295 ピストン部シャフトガイド部セット

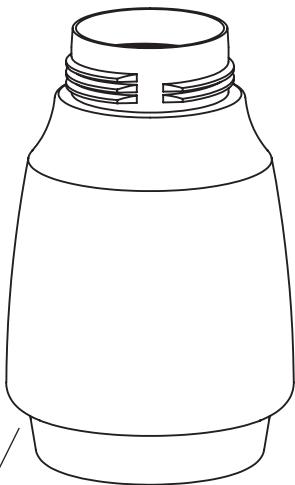
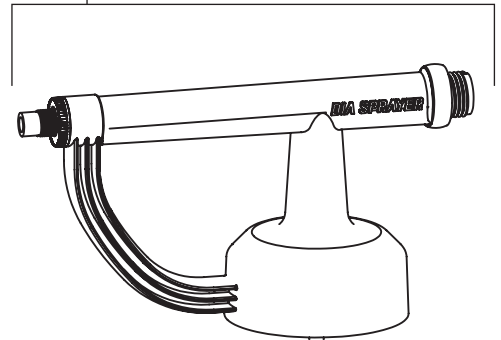
291 ノズルパイプセット (30cm)



290 噴霧口セット

91333 本体部セット

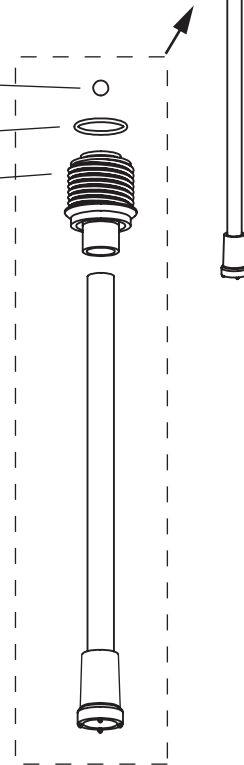
※No.292シリンダー部セット内臓



298 タンク (1700ml)

(ボール弁部)

- ・ 4mmボール
- ・ 弁ホルダーパッキング
- ・ 弁ホルダー



・ 部品の発注は部品セット番号でご注文ください。